

東日本産地の苦境強まる

乾

椎

茸



あめ

原発事故後に出荷の制限や自粛が続く東日本では出荷停止中の産地がまだ残る。岩手県では放射能基準を満たす原木が供給不足から高騰し苦境が強まる。一方の西日本では大分、宮崎、愛媛の主産地3県が国内生産を牽引し、相場は4千円/kg前後で安定推移。生産量・価格とも西高東低が鮮明だ。相場高止まりを背景に植菌数は増えている一方、原発事故後の出荷自粛や風評被害から廃業した生産者も多く、減少分は容易には埋まりそうにない。価格高騰がさらに進めば、消費者離れも懸念される状況だ。

乾椎茸の国内供給量推移

林野庁・財務省(18年は本紙推定)

